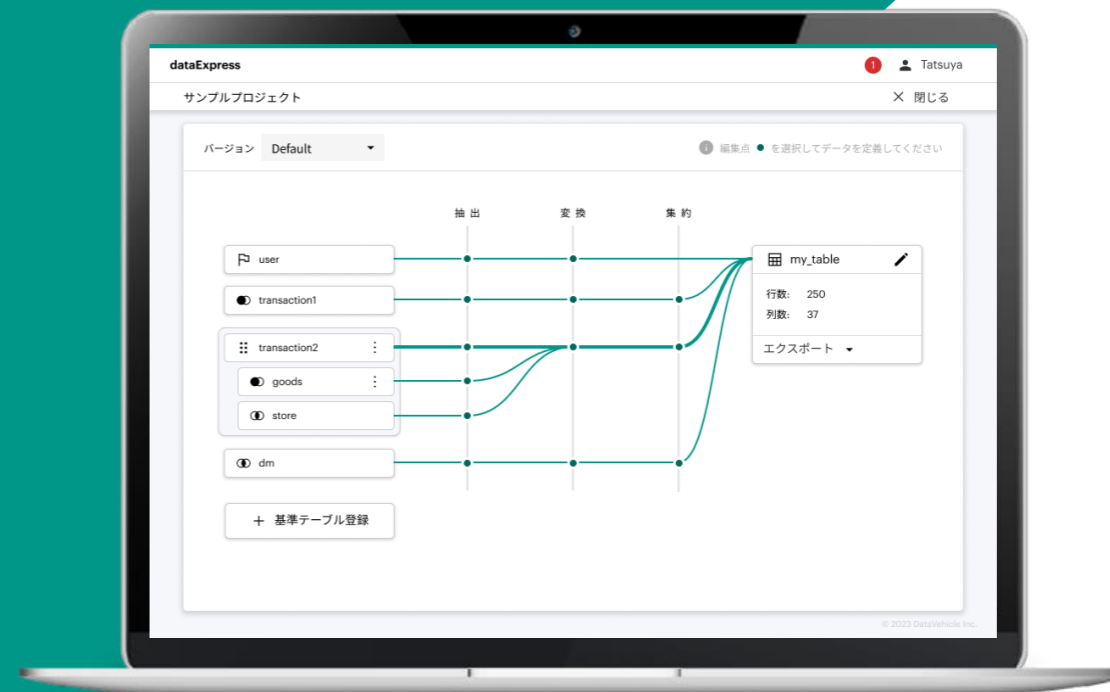


3分でわかる データマート構築ツール dataExpress



データ利活用の歴史的背景

① スタートはデータエンジニア



データエンジニアが準備したデータでダッシュボードやレポートを作成するように

ビジネス運営に必要なデータベースやSaaSツールからデータを抽出、変換、データウェアハウスにロードできる状態に体制構築。

② 次に求められたデータアナリスト



③ データツール・テクノロジーの進化



生データを分析に適した変換してデータマートを構築し、誰でも分析できるような体制準備が求められるように。

データ専門人材以外の人々もデータリテラシーが必要に。ビジネスユーザー自身でデータ駆動型の意思決定を行いたい需要が高まる。

④ 企業のデータ利活用をスムーズにするアナリティクスエンジニアの誕生



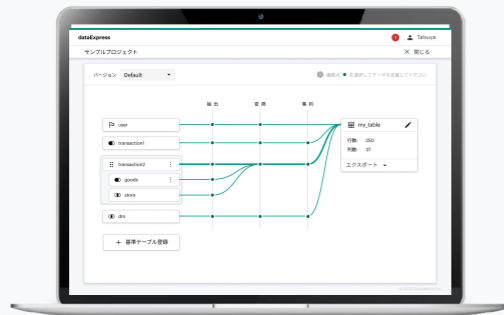
<https://www.getdbt.com/what-is-analytics-engineering>を元に作成

これからのデータ利活用は「**非データ専門人材がデータ駆動型の意思決定**」するための環境整備(データマートの構築)が重要に

ノーコードでスムーズなデータマート構築を支援し、 非データチームのデータ分析を活性化

分析のためのデータを自動生成する
革新的なUIを備えた
データマート構築ツール

dataExpress



特長
1

必要な操作はデータの
アップロードだけ

入れる

特長
2

もちろん、ノーコードで
柔軟な加工も

作る

特長
3

クロス集計&可視化で
分析業務もフォロー

集計する

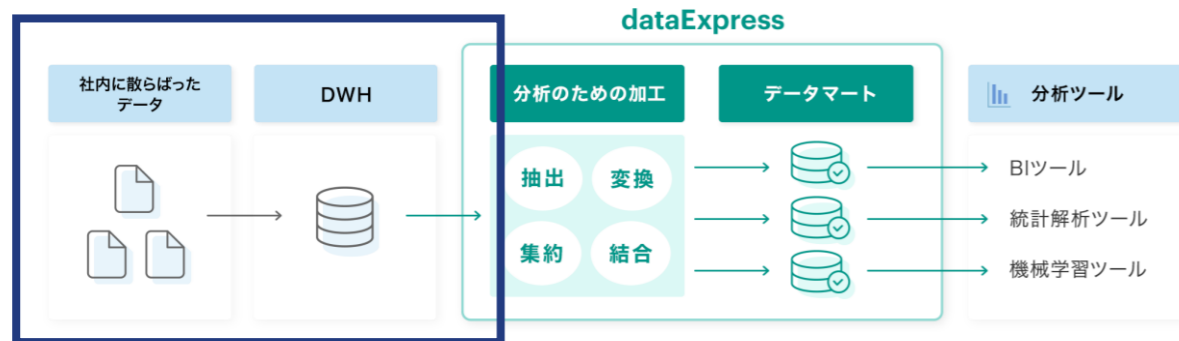
特長
4

スケジュール実行で
いつでも最新のデータを

流す

データを「入れる」

ファイルを選んで読み込むだけ。
解析単位の結合設定を行うだけで、
自動でファイルを結合し、分析用の
データセットを作成します。



CSV



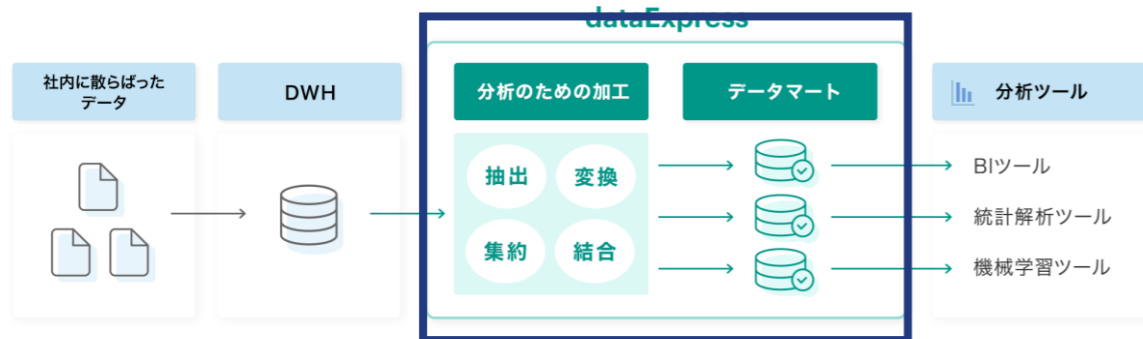
データベース



クラウド
ストレージ

データを「作る」

自動生成されたデータセットをより分析目的に合わせたデータセットにするため、集約機能で新たな変数を作成します。



集計

件数	合計	最大値	最小値
平均	中央値	分散	標準偏差
種類	最頻値		

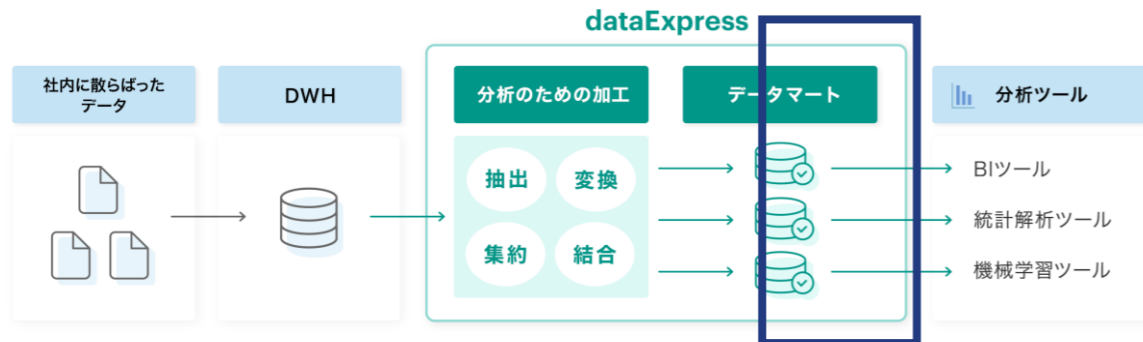
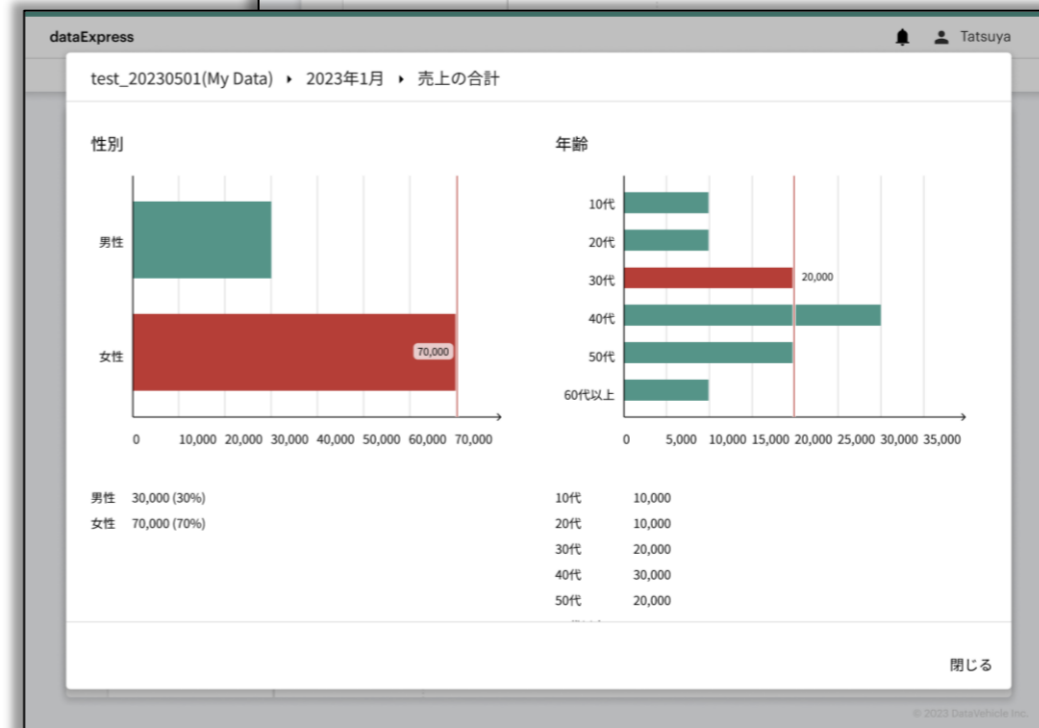
変数処理

グループ化	二値化(文字型)
カテゴリ化	二値化(数値型)
外れ値除去	日付要素の取得

データを「集計する」

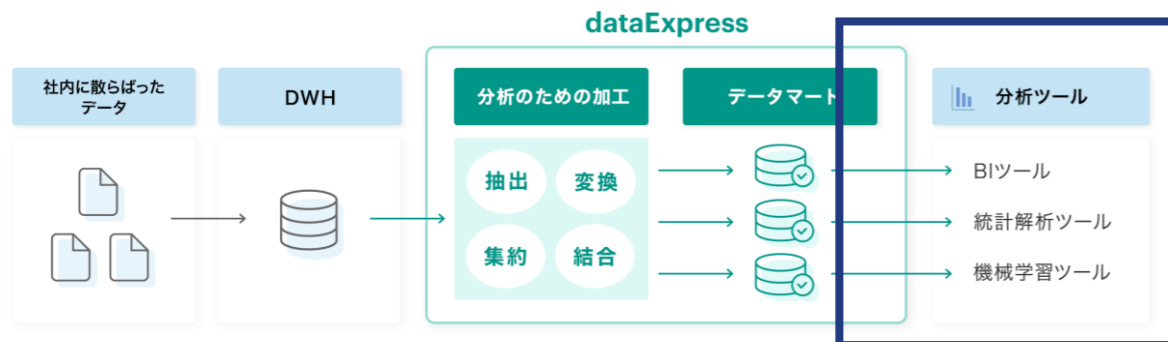
作成完了したデータセットをそのまま集計&可視化。ツール上で自分が見たい指標をタイムリーに確認、洞察できます。

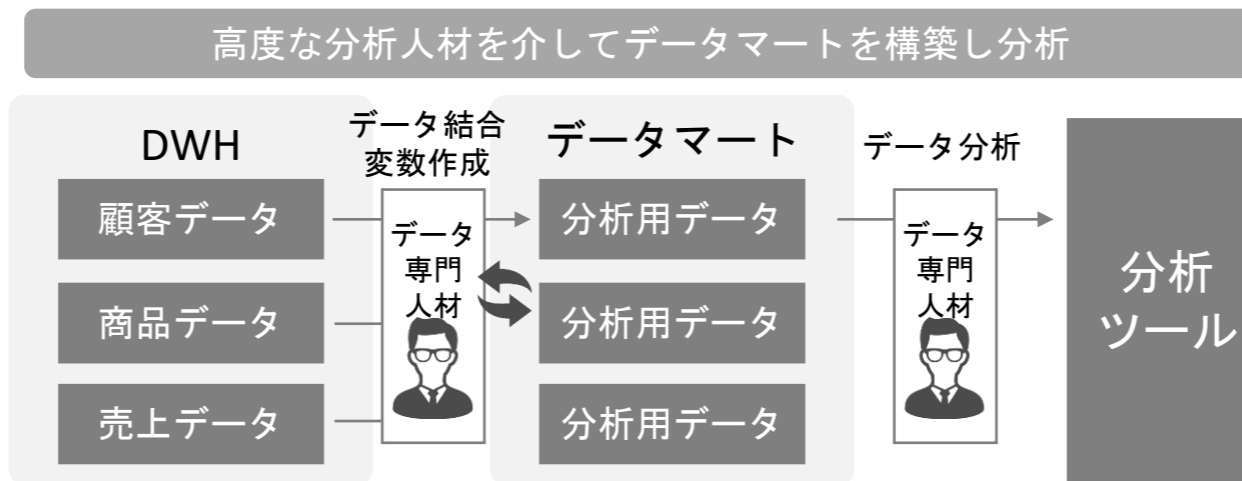
集計軸の選択	件数	%	売上の合計	購買回数の平均	指標の追加
全体	10,000	100	100,000	3.0	
性別					
男性	3,000	30	30,000	2.0	
女性	7,000	70	70,000	4.0	
年齢					
10代	1,000	10	10,000	1.5	
20代	1,500	15	10,000	1.5	



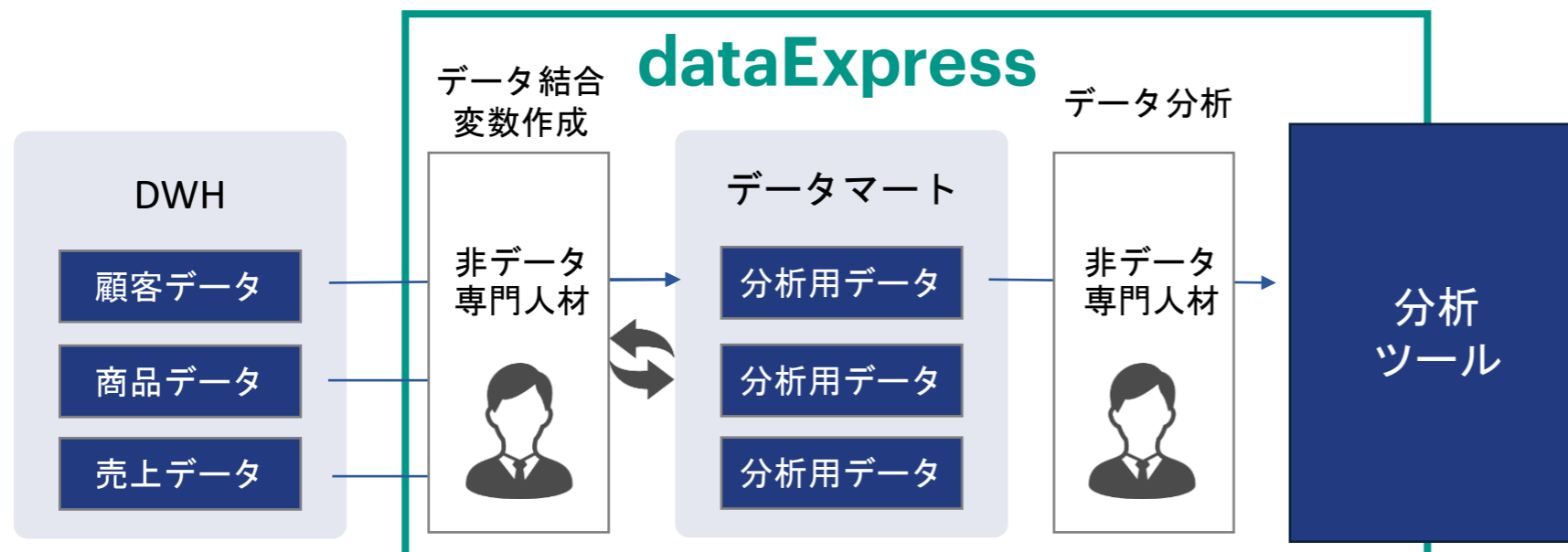
データを「流す」

スケジュール機能を使えば、毎月の会議に合わせてデータを自動で準備することも可能です。いつでも最新の分析やレポートにアクセスできるため、データ準備ではなく分析結果の洞察や施策立案に時間を割けるようになります。





「非データ専門人材だけ」で分析までの流れをノーコードで実行



非データ専門人材だけで
データ分析までを実行



- ・ 分析までの時間を短縮
- ・ 見たい指標をすぐに集計

まとめ

1

これからのデータ利活用はアナリティクスエンジニアリングおよび「非データチームがデータ駆動型意思決定」が重要に

2

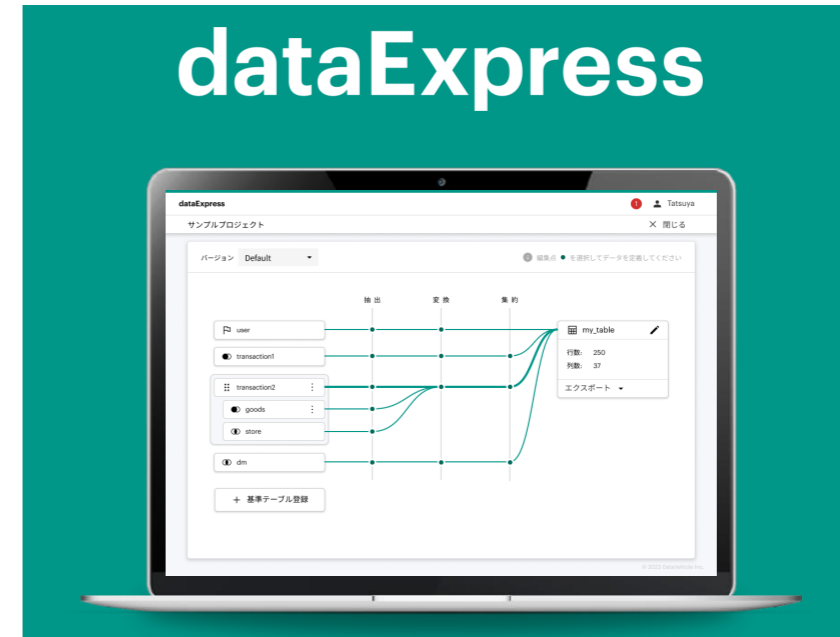
dataExpressはノーコードでアナリティクスエンジニアリングができる「データマート構築ツール」

3

dataExpressを導入することで、「非データ専門人材」のデータマート構築および分析のハードルを下げ、非データ専門人材のデータ分析を推進できる

【まずはお問い合わせください】

- ・ 料金、契約期間
- ・ 詳しいご活用方法
- ・ 事例 など



<https://www.dtvcl.com/contact/>

お問い合わせはこちら